

朝日連峰保全協議会 第1回会合
議事録

日時：2009年5月22日（金）14:00～15:00

場所：大江町東地区公民館（町民ふれあい会館）

■開会

事務局 佐藤：

朝日連峰保全協議会の事務局を務めております、環境省羽黒自然保護官の佐藤です。暫時の間、司会を務めさせていただきますので、よろしくお願い致します。それでは議事に入る前に、出席者の紹介といたしまして、マイクを回しますので、所属と氏名を述べていただければと思いますのでよろしくお願い致します。

■出席者紹介

（各団体から名前と所属の自己紹介）※参加者名簿一覧表参照

事務局 佐藤：

続きまして、資料の確認をさせていただきたいと思います。

（配布資料の確認）

事務局 佐藤：

以後の議事進行につきましては、代表の渋谷さんをお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

■議題1 平成21年度の各団体の実施計画について

代表 渋谷氏：

渋谷です。次第に基づいて進行させていただきます。最初に山岳会その他の方が登山道の整備などをやっておられると思うのですが、行政や皆様のご理解を得るためにも、それぞれの皆様から今年の計画についてお聞きしたいと思います。

大江山岳会 高取氏：

大江山岳会です。毎年計画は変わりないのですが、毎年6月第3日曜日にある朝日連峰山開きが行われておりますけれども、それに合わせまして登山道にある倒木の除去ですとか、通行の妨げになる枝の除去などを行います。7月の末になりますと、登山道の刈り払いや洗堀された登山道の整備等を毎年このサイクルで行っております。以上です。

鶴岡山岳会 常世氏：

鶴岡山岳会の常世と申します。率直に申し上げまして、鶴岡山岳会としましては行政側や地元の人たちとの連携による登山道の整備に参加したいと思っておりましたが、呼びかけもなかったこともありまして、行ってきませんでしたことをご承知いただきたいと思えます。今回朝日連峰保全協議会が立ち上がりましたので、この会を通じて整備の行事に参加するように会員に広く呼びかけていきたいと思っております。もちろん、地元で里山を中心にして鶴岡市が実施している市民登山などで事前に邪魔になる枝を取り払ったり、崩れているところの補修を行うなど、そういった作業は行ってきております。朝日連峰に直接関わる問題としましては、森林管理署さんが中心となって行っている朝日連峰の自然保護に関わる関係の行事には参加しているといったそういう状況です。以上です。

小国山岳会 井上氏：

小国山岳会の井上です。先ほど、小国山岳会の高橋会長が自己紹介の時に触れておりましたが、小国口、いわゆる針生平から大朝日の登山道、それから祝瓶山に登るコース、それからちょっと標高が低いのですが、徳綱山、主としてこれらの整備を行っております。一番の問題としましては、吊り橋でございます。登山道の刈り払い等もございますけれども、いくつか沢を渡るところがございまして、そこについている吊り橋、昨年度も山形県さんに潜り橋等を復元していただいたのですが、なかなか上手く行っていないというのが現状でございまして、吊り橋の部分が一番の大きな課題なのではないかと考えております。以上です。

三面山岳会 遠山氏：

新潟側の三面口につきましてお話しします。三面口は非常に登山者が少ないルートでして、それというのも、一つはスーパーラインという道路があるのですが、今は除雪しないで自然に雪が溶けるのを待って、雪崩等による残物を整理して、それから一般車の通行ができる状態になるもので、6月の末くらいにならないと通行できないという状態です。それから登山道については事故がありまして、平成18年まで刈り払い等は行ってきませんでした、平成19年から行うということで、自然公園管理員の志田菊宏さんをお願いして、道陸神峰避難小屋まで、また昨年は上部まで刈り払いをすることになりました。三面小屋までの間は建設事務所をお願いして刈り払いを行っています。現状はそのようになっています。

長井山岳会・岳人長井（発言者：長井山岳会・高橋氏）：

長井山岳会の高橋です。長井の方ですと祝瓶山と葉山の二つがあるのですが、長井には長井山岳会と岳人長井の二つの山岳会がございまして、手分けして整備を行っている状況です。主に、岳人長井は葉山口の整備しておりまして、長井山岳会では祝瓶山を中心にやっております。特に祝瓶の長井からの直登コースですが、崩落がひどくなっていて、登山

者も増えてきております。非常に急登でして、新しいルートを作ることもできませんので、さてどうしたものかという状況です。朝日の国立公園からはどういう訳か除外された訳ですが、今はなにもやれる手当がないという状態です。なんとか祝瓶山の崩落を考えていきたいと思っています。現状は以上でございます。

代表 渋谷氏（西川山岳会）：

どうもありがとうございました。朝日山岳会の花山さんが到着しておりませんので、私から西川山岳会の計画をお話します。西川山岳会では、登山口から4本の登山道の整備を行っているのですが、今まで2本ほど整備しまして終わりましたけれども、あと2本が残っておりまして、今年はハナヌキ峰なのですが、ブナ林の中で赤土が出ていてものすごく荒れています。今年はそのところの保全活動を行いたいと思っています。刈り払いと小屋管理等につきましては、自然公園管理員と連絡を取りまして、協力、支援をしていきたいと思っています。

代表 渋谷氏：

以上、その他の計画の報告はありますでしょうか。各登山口の各山岳会等での活動がございますので、環境省はじめ、森林管理署、市町村の皆様にはご理解とご協力をお願いしたいと思います。以上が各山岳会からの情報提供でございました。

■議題2 平成21年度合同保全作業について

代表 渋谷氏：

続いて2番目の平成21年度の合同保全作業に移りたいと思います。保全方針書について、事務局から説明していただいて、その後に具体的な箇所の設定に移りたいと思います。よろしくをお願いします。

事務局 佐藤：

はい、保全方針書が手元にごございますけれども、こちらにつきまして、私の方から説明したいと思います。平成19年度から20年度にかけての調査の経緯等凝縮したものでございます。

2ページをご覧いただきたいと思うのですが、朝日連峰らしさを残していくためのどのようにすればいいのかということで、2～3ページの方では保全にかけての基本的な方針と整備する際の方針を決めてあります。読み上げたいと思います。【Ⅰ】自然の宝庫 朝日連峰にふさわしい魅力ある登山道とする。【Ⅱ】登山利用による登山道周辺の自然環境への影響を抑制し、朝日連峰の特徴的な自然を保全する。【Ⅲ】朝日連峰に係る人々が連携・共同して登山道を保全する、とあります。そういった方針の元に、整備方針、整備水準を定めておりまして、4～5ページでは整備水準、保全修復ランク、保全規制ランク、現状

と比較しながらランク分けしていきまして、そちらを6～7ページの方に記載してあります。簡単に言いますと、色が赤いものが早く手を入れた方が良いという保全箇所です。そして、黄色、青色というようになっております。特に朝日連峰の主稜線上にある赤いラインは緊急性が高い箇所となっております、黄色いライン、青いラインと続いていきます。赤いラインの中でも七箇所、重点的に整備を加えるべき重点整備箇所というものを決めてあります。赤いライン上にある黒枠、白抜きのところですが、まずは以東岳の北の方からなのですが、重点整備箇所01番オツボ峰周辺、また左下にいきまして、02番以東岳直登コース、特に上部。そしてその右側になりまして、03番の以東岳から三方境の区間。それから続いて04番の西朝日岳から中岳の区間。そして、05番、昔のテント場の金玉水の下部の崩落箇所、そして大朝日の方に近づきまして、06番大朝日岳南西斜面、そして最後、07番の銀玉水の植生復元箇所の最上段、この7箇所が早急に取り組むべき重点整備箇所というように保全方針書にはとりまとめられております。

代表 渋谷氏：

保全方針に基づく人為的な荒廃地区がご指摘されましたので、これらに沿っていきたいと思います。それではどこをやるかということを決めていただければと思います。たくさんございましたけれども、我々の手でやれるところ、とても手をつけられなくて公共事業でやらなければならないところ、と色々あると思うのです。我々がやる所をまず決めていただきたいと思います。花山さんから先日発起人の集まりで是非ともお願いしたいという箇所があったのですが、まだご到着されておりませんので、地元に近い高取さんの方から説明していただけたらと思います。

幹事 高取氏：

お手元の資料で今説明がありましたけれども、三方境と西朝日岳東側の鞍部につきましては、去年実証試験を実施した訳ですが、この2つの箇所は荒廃が大きく進んでいた箇所でありましたので、昨年度整備を行いました。この2箇所については手が入りましたので、今年の実施箇所についてはこの2つを除いた場所がいいのではと思います。できれば、07番の銀玉水の箇所なのですが、山形県が平成15年度～17年年度の3ヶ年で実施してきたのですが、15～16年の2年間は計画が終わったのですが、17年は三位一体の改革を受けまして、予算が取れないと言うことで頓挫したままとなっております。銀玉水の上部を今年は実施してはどうかと提案させていただきたいと思います。以上です。

代表 渋谷氏：

大江の高取さんから意見をいただいたのですが、先日も花山さんからもぜひ銀玉水の上部、工事が残されたところを我々の手でやってみてはどうかと提案がありました。いか

がでしょうか。

(異議なしとの声)

それではご賛同いただいたものとします。それでは今年の保全地区は07番銀玉水の最上部ということにしたいと思います。

この場所は、大江町と朝日町が管理している場所なので、具体的な作業を行う上での担当幹事ということで、大江山岳会と朝日山岳会にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

幹事 高取氏 (大江山岳会) :

私共大江山岳会が管理している登山道でもありますし、ぜひやりたいと思いますので一つよろしくお願ひしたいと思います。

代表 渋谷氏 :

ありがとうございます。

事務局 佐藤 :

銀玉水上部なのですが、くぼんでいるような斜面地の稜線上となっております、作業が難しいことが想定されております。ただ、やれる範囲からやっていければと思っておりますので、これから調査等を行い見極めながら実際の作業を計画させていただければと思います。朝日山岳会、大江山岳会の皆様と調整させていただいて、そしてご都合よろしければ、皆さんのお力で支持していただいて、作業ができればと思っております。2年間かけて行った石段や階段工と植生ネットなどの施工箇所があるのですが、両サイドの緑化ネットなのですが、緑化するはずが、施工から3年経ちますけれども、草が生えておらず功を奏していないということでもありますので、その辺も含めながら道が安定するようにやっていきたいと思ひます。

(銀玉水上部写真をスライドに投影)

画面の右手側の方が現在、石段等で幅5mほど登っていくというような部分で、最後の方に、緑化ネット、丸太階段を使って水抜き等を行っております。非常にしっかり整備していただいたので、荒廃はストップしておりますけれども、いかんせん緑化が進んでいないという植生復元施設の状態です。今回考へていることは、その緑化もありますけれども、もう少し上方の方に、まだ手をつけられていない区間がございます。そちらの方の区間を自分たちの手のできる範囲でやれる方法はないかと、その方法と保全方針書にある方法等を見合わせながら、あるいは新しい方法を検討しながら今シーズン検討していきたいと思ひしております。以上です。

代表 渋谷氏：

ありがとうございました。それではそのような構想を決定していただきたいと思います。それで、各山岳会の方の山行、各山岳会のホームページ等でこれからの取り組み方を流しまして、朝日連峰によく登っている方々、一般の方々が参加してくださいますよう、それらの方も含めまして、実施したいと思います。時期ですけれども、登山の最盛期を過ぎた秋、9月末～10月の末あたりの間に時期を見計らって、幹事と事務局で打ち合わせをしまして実施したいと思います。決まりましたら情報を流して実施をしていきたいと思います。それから参加する方は、自己責任で参加していただきたいと思います。必要な資材等につきましては、公共の方をお願いしたいと基本的に考えておりますので、よろしくお願ひします。国立公園では石を一つ動かすだけでも許可が必要なので、これらにつきましては、本日関係者の皆さんにもお集まりいただいているので、ご了解といたしますか、ご承認をお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。なお、昨年実証試験を行った箇所につきまして、資料の方を説明させていただきます。

事務局 佐藤：

はい、お手元の資料の保全方針書の62ページをご覧くださいと思います。62ページから後ろの方には、昨年行いました三方境、西朝日岳東側鞍部、先ほど説明のありました実証試験の概要となっております。まず62ページに実証試験の目的があります。目的1としましては、①朝日連峰の特徴であり、整備事例が少ない風衝地における保全修復手法の確立。②自然の治癒力・回復力を前提に人がどこまで手を加えるべきかの見極め。③登山道の保全修復を効果的に進めるための実施体制の方向付け。④その他実施にあたっての問題点・課題の把握・整理、となっております。ページをめくっていただいて、63ページ、昨年度の7月の12日13日に事前調査を行っておりまして、そして9月6日～7日に技術講習会、石組みや石組みによる整備手法を検討するために、福留脩文先生という西日本で主に石組み等の技術講習をされている方がおりまして、その座学と技術講習実技を行いました。そして、その経験を生かしながら9月20日～23日にかけて実証試験を行っております。それらの状況写真が64ページ、65ページと続くのですが、64ページの方が三方境の状況です。ページの間の方には施工前の状態、下の方に施工後の写真が写っております。施工前と比べまして、荒廃した箇所、土が露出した箇所に緑化ネットが帯状に敷き詰められているのが分かると思います。またちょっと見にくいのですが、周辺に存在している転石を利用して石組みを行って、土砂が留まるように施工してあります。そして65ページの方では、西朝日岳の施工写真ですけれども、こちらも鞍部で荒廃している箇所がありまして、そちらの方には緑化ネットを敷き詰めて、登山道の周辺に池塘がございまして、決壊しかかっている池塘であったので、登山道の石を使って保全作業を行いました。そして64ページに戻るのですが、先々週の5月8日に有志で、羽黒アクティブレンジャーの佐々木と、飯豊で保全作業に関わってくださっている鈴木定子さんたちと

三方境に行ったそうです。それでその写真をスクリーンに出させてもらっておりまして、昨年秋に施工して11月くらいに一度行ったことがありますけれども、今年初めて確認するという形になります。設置した石組みや緑化ネットはすべて風に飛ばされることもなく、最も風衝地で強風が吹き付ける場所ではありますけれども、全部が施工した状態のままに残っておりまして、これに緑化ですね、種子を採取してネットを敷いておりますので、その発芽状況も今シーズン気になるところでございます。環境省の方でも、三方境と西朝日岳の方で、実証試験の効果を検証する必要もありますのでモニタリングをしようという話もありまして、それは今シーズンに予定しておりますので、あわせて報告させていただきます。以上です。

代表 渋谷氏：

ありがとうございました。以上で今日の予定は終わりになりますが、その他につきましてみなさんからなにかございませんでしょうか。

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター 青山氏：

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターの青山と申します。朝日山地なのですが、国立公園と同時に森林生態系保護地域という保護林になっております。森林生態系保護地域の取り扱いと言うことで、朝日山地では管理委員会の中での協議によって色々決まっていくということもありますので、行政では生態系の保安林にもなっておりますので、こちらの方の委員会との調整も必要かなと思っておりますが、ご了承いただきたいと思っております。事務局をやっております、佐藤一交さんが管理委員会のメンバーでもありますので、そちら方支障ないかと思っておりますが、よろしくお願い致します。

事務局 佐藤：

はい、私の方でもその点非常に強く認識しておりまして、情報交換、情報提供をしていきたいと思っております。生態系保護地域の管理委員会につきましては、やはり朝日連峰の登山者の方から声を発していただきたいなと思っておりますので、ご理解よろしくお願い致します。

代表 渋谷氏：

はい、ありがとうございました。大井沢の志田さんより先ほど、自然保護関係のお話をしたいとのことでしたので、志田さんよろしく申し上げます。

朝日連峰のブナ等の原生林を守る会 志田氏：

山の人ばかりで、名乗らなくとも知っていると思っておりますが、小国から庄内まで、初代の朝日の管理人をまかされておりました志田です。小朝日から以東は特別保護地区になって

おりますが、石組みなども禁じられておりまして昔も今も規制は同じだと思いますが、補修をやるにも許可が出るのかどうか、少し心配があるところでございます。

昭和46年に初めて環境庁となって、自然公園管理人になりましたが、朝日に至ってはいかなる破壊からも守らなければならないというような講演がありまして私も行ったことがあります。そして27年には、自然保護と安全な利用ということで、表彰を受けました。平成元年には総理から直接感謝の色紙を頂いております。総理大臣は滅多に書かないのですが、朝日に関してしっかり行ってほしいというようなことを言っていただき、11月3日には賞を受賞致しました。その他色々な方からも声をかけられました。

朝日連峰には高山植物が約280種類、哺乳類が27種類、両生類が14種類、は虫類が10種類、冬虫夏草に至っては、210種類（日本では300種類くらいになっておりますが）。特に、大井沢には貴重な冬虫夏草があり、発見した時、国立博物館で話題となり、世界的なことにもなりました。そんな大変貴重な動植物が朝日連峰にはあります。昔は落ち葉を拾って処罰という時代もありましたが、大変貴重な植物が朝日連峰にはありますので、皆さんにはツルハシ等を使って作業を行っていいのか、自分は心配な部分もあります。もちろん許可を取ってやっているのだと思いますが、その辺をしっかり吟味していただいて、朝日連峰の貴重な動植物を保護し、保全活動を行っていただければ、私は役に立てたと思います。

また、今年も色々なものに紹介されております。自然保護の新聞などにも記載されております。自分だけでなく皆さんの力で各賞を受賞できました。各山岳会も勉強されまして、保護を進めて行けたら、今回お時間をいただいたことを嬉しく思います。ありがとうございました。

代表 渋谷氏：

貴重なお話ありがとうございました。その他、なにかございましたか。

それでは進行を事務局に戻したいと思います。

事務局 佐藤：

渋谷代表、ありがとうございました。それでは本日の検討結果などは後日ニュースレターを郵送させていただきたいと思っております。また、合同保全作業の実施についても、みなさんの山行の予定もあると思っておりますので、なるべく早い段階で日程を決めまして、ご案内させていただきたいと思っております。また本日の資料に、朝日連峰協議会の登録申込書を添付させていただいておりますので、ニュースレターや案内発送に使わせていただきますので、登録を希望される方は、申込書を後日FAXやメール、郵送等で事務局までお送りくださいますよう、よろしくお願い致します。では、これを持ちまして朝日連峰保全協議会第1回会合を閉会させていただきます。長時間お疲れ様でした。

(拍手)